「 FASP (First Aid Spread Plan) 」

1. はじめに

日本における心疾患の死亡率は悪性新生物に次いで２位となっており、心疾患は突然死の原因ともなる。最近では、公共施設にも AED の設置が義務付けられるようになり、一般市民にも CPR や AED を目の当たりにする場面が多くなった。そこで、心肺蘇生や AED といった救急救命法をより多くの人々が知る必要があるのではないかと考え、先輩方が立ち上げた「ＱＱ救命普及プロジェクト」を継続することにした。本報告では、「ＱＱ救命普及プロジェクト」の平成２４年度活動報告を行う。

2. プロジェクトの内容

本プロジェクトの目的は、学生や地域住民に対し、心肺蘇生法を学ぶ機会を与え、いざという時に活用してもらえるようにすることと、救急救命をより身近に感じてもらうことを目的とした。

プロジェクト内容としては、2010 年に改定された、JRC に沿った心肺蘇生法を学生が学び、知識をつけ、少しでも多くの人に心肺蘇生をもっと身近に感じてもらうため、より参加しやすい講習会を企画し、その地域や場所のニーズに応じた講習会を企画した。今回実施した講習会は、善意フェスティバル（のんほいパーク）での救急救命講習会、いきいきフェスタ（ライフポート）での救急救命講習会、また、学内では Basic 講習会、創造祭では保健所のエイズ予防チームと連携し、救急救命講座を開催した。

善意フェスティバル（のんほいパーク）での救急救命講習会では、小中学生を含め一般市民の参加が多かったため、わかりやすい言葉で、かつポイントとする部分を重点的に講習を行った（図１）。

いきいきフェスタ（ライフポート）では外国人や障害者を中心とした参加が多く、言葉だけでは伝えられない状況が多くあった。善意フェスティバルと同様に、ポイントとする部分を重点的に説明したり、デモンステレーションを多く行うなどの工夫を行った。

Basic 講習会では、本学の生徒や一般市民を対象に外部講師を招き、救急救命法を学び、インストラクターになるための知識を得た（図 2)。

創造祭では、保健所のエイズ予防チームと連携し、教室を止血法、軌道異物除去、CPR・AED と３つのブースに分け、一つずつ丁寧に詳しく教えられるように、また質問をすぐに受けられるようにした。また様々な年代の方々に対して個々に合わせた言葉や方法で行った（図 3)。

図１　善意フェスティバル

図２　Basic 講習会

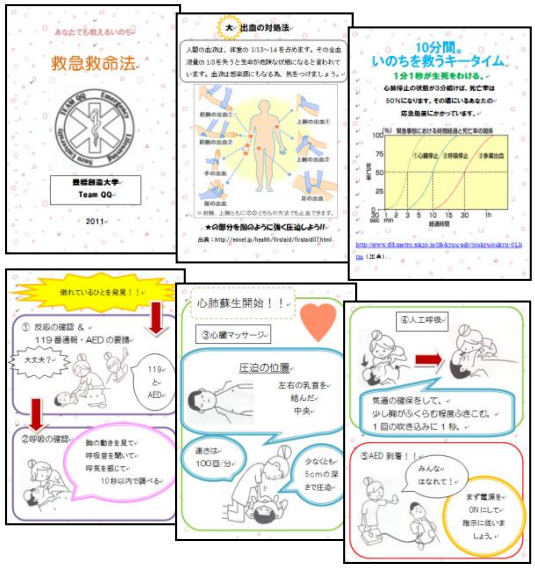
図３　創造祭

3.　その他の活動

心肺蘇生啓発普及グッズ

大学祭や各フェスティバルにて、昨年に引き続き、講座に参加できない人にもより救急救命法を知ってもらうために、心肺蘇生の手順を記載した心肺蘇生法と止血法を記載したパンフレットを配布した。パンフレットの内容は図 4 を参照。

図 4　パンフレット



4.　まとめ

本報告書では、「FASP」の活動内容について述べた。このプロジェクトでは、学生や地域住民に対して、救急救命講座を開催し、救急救命法について体験する機会をつくることができ、救急救命講座への地域住民の関心の高さというものを知ることができた。今後も TEAMQQ の講習会が救急救命法に興味を持つきっかけとなるように今後も活動を継続し、知識を地域に還元していく。そして、救急救命法に興味がない人や、興味があるが参加に一歩踏み出せない人が多く地域にいることが予想されるため、より分かりやすく楽しい講習会を開催するべく、工夫と日々の練習を積み重ねていく。

いきいきフェスタでは、どのような方にも学んでいただけるよう多くの工夫を行ったが、まだまだ伝えきれない部分が多くあったため今後の課題となった。様々な年代・国・身体状況などに合わせた、ポイントを押さえた個別性のある心肺蘇生法を学習していく必要があると考える。

Basic 講習会は本学での実施とあって本学の生徒が多数参加となった。今後は本学の多くの生徒がインストラクターの資格がとれるよう積極的に本学での講習会実施を行っていきたい。しかし今回は協会と学校との連携がスムーズにいかなかった部分があったので、今後の課題となった。

創造祭では、多くの方々の参加により、様々な感想や質問を得て、向上すべき点・課題点が見つかったため、今後の課題となった。また、創造祭で学内にて講習会を実施したにも関わらず、学生の参加が少なかった。そのため学生にも参加しやすい講習会を開催する工夫が必要であると考える。

謝辞

本プロジェクトを遂行するに当たり、当該プロジェクトについて理解くださり、ご支援くださった豊橋創造大学関係各位に感謝申し上げます。また、大変お忙しい中、たびたび技術的な支援をいただいた日本救急蘇生普及協会の方々に厚く御礼申し上げます。